

**CLUB WEEKLY No.0031**

# よいことのために手を取りあおう

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツオ

## 基本的教育と識字率向上 / ロータリーの友月間

例会日：2025年9月1日（令和7年9月1日）



会長 平松悦子

**今日の例会**2025年9月1日  
12:30~**次回の例会**2025年9月22日  
オンライン 12:30~

- 今日の歌 【四つのテスト】
- 出席報告
- ニコニコ報告
- 卓話：小林 友美子

- 今日の歌 【それでこそロータリー】
- 出席報告
- 卓話：和田 悠希子

**会長の時間**

平松悦子

私たち大阪上方ロータリークラブは、昨年度新たに誕生した、まだ若いクラブです。けれども、設立当初から明確なビジョンを持って活動してまいりました。それが、「ポリオに特化した奉仕クラブ」という方向性です。ロータリーの長年の取り組みであるポリオ撲滅運動に、私たちも明確な意思を持って関わっていこうという想いで始まりました。私自身、改めてこのポリオ問題を深く学ぶ中で、「世界に残された課題を無視しない」というロータリー精神の本質に強く心を動かされました。

また、昨年度より取り組んでいるのが、「子ども食堂」の運営です。これは、ポリオという“世界的な課題”と並行して、地域の“足元の課題”にも目を向けていたいという、クラブメンバーの強い意志から生まれた活動です。毎月1回、小さな場所で、あたたかいご飯と安心できる空間を、子どもたちに提供しています。特別なことをしているわけではありませんが、そこにあるのは、人と人のつながりと、誰かを思いやる心です。私は奉仕とは「行動」であり、「継続」であり、何より「誠意」だと思っております。大きなことをする必要はありません。一人の子どもの笑顔や、地域の方の「ありがとう」という言葉が、私たちの心のエネルギーとなります。このような取り組みを、これからも“無理なく・楽しく・意味のあるかたち”で続けていきたいと考えています。

今年度、会長として私が掲げたいテーマは、「しなやかに、そしてしっかりとー新しいクラブだからできる奉仕を」です。まだ歴史の浅いクラブだからこそ、私たちには柔軟さと可能性があります。固定観念に縛られず、時代や地域のニーズに合わせて、ロータリーの精神を今の形で表現していきたいのです。

- ・若い世代にアプローチするにはどうすればよいか
- ・SNS や動画など、新しい伝え方をどう取り入れるか
- ・女性の参加や多様な価値観をどう受け入れていくか

こうした課題に前向きに向き合いながら、「上方クラブならではのロータリー活動」を築いていけたらと思っています。

もちろん、私一人の力ではできません。むしろ、私には皆さまの知恵と力が必要です。だからこそ、この1年は“皆でつくるクラブ”にしていきたいと強く願っています。

最後に。

ロータリーの原点は、「超我の奉仕」——つまり、自分のことよりも他者のために、という精神です。その原点に、私たちはいつも立ち返りながら、未来に向かって歩み続けるべきだと思います。

大阪上方ロータリークラブが、地域に、そして世界に、小さくても確かな光を届けられる存在であり続けられるよう、どうかこれからのお1年間、皆さまの変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 幹事報告

久保太公矢

\*MyRotaery登録が未了の方、今後も会員同志サポートしながら全員登録にご協力お願いいたします。

### 【9月の予定】

\*ロータリー財団セミナーのご案内

出席者：平松悦子会長

和田悠希子ロータリー財団委員長

安田剛国際奉仕委員長

日 時：9月6日（土）13:00～16:00

（受付は30分前より開始）

\*クラブ職業奉仕委員長会議のご案内

出席者：小林友美子クラブ職業奉仕委員長

日 時：9月20日（土）10:00～12:00

（受付は30分前より開始）

\*公共イメージ向上セミナーのご案内

出席者：青戸佳世広報委員長

日 時：9月20日（土）13:00～14:30

（受付は30分前より開始）

\*国際・社会奉仕合同委員長会議のご案内

出席者：安田剛国際奉仕委員長

竹谷美和社会奉仕委員長

日 時：9月20日（土）15:00～17:00

（受付は30分前より開始）

いずれも会場は大阪市西区土佐堀1-5-6

大阪YMCA国際文化センター2Fです。

皆様ご出席よろしくお願ひいたします。

## 出席報告

2025年8月25日

※() 内数字は出席免除会員の出席人数 会員：24名（免除0名）

会員数	24(0)名
出席会員数	14(0)名
メーキャップ	0名
ゲスト	0名
合 計	14名

15/24 出席率：58.3%

## 俳句同好会だより

溝畠正信

第2回大阪上方やいと句会が、8月22日（木）に開催されました。

場所：大阪市西区本田3丁目2-1

“やいと” Tel: 06-6584-2922

出席者：道木憲子、道木良明、溝畠洋子、溝畠正信

17時30分～19時までお酒の出る食事

20時30分まで句会

1人4句提出、4句選で行われました。

皆様、楽しい句会へぜひご参加ください♪

正岡子規以後、俳句で大きな仕事をしたのは高浜虚子です。長谷川素逝という人が日華事変のとき砲兵少尉として出征し、「黄河の堤防敵によって断たる」の前書きの付いた、「氾濫の黄河に民の粟しづむ」を「ホトトギス」に投句しました。この句を高浜虚子は、「氾濫の黄河の民の粟しづむ」としました。「に」を「の」にしただけなのですが、一句は大きく変貌しました。「に」では単なる事実の報告だけ。広大な中国大陸、なかでも黄河の治水は古代の皇帝堯・舜の時代から政治の要諦であり、氾濫を繰り返して悠久と流れる黄河の歴史の中に、中国民衆の苦難の歴史もありました。ただ眼前的出来事だけでなく、目に見えない大きなものが虚子には見えていました。そういう一句のスケールを大きくした「の」なのです。

## 今月の自選句

能登の海漆乾かぬ酷暑かな 道木 憲子

小柄なる姑が残せし秋枠 道木 憲子

寂しさを生きよ生きよと法師蟬 溝畠 洋子

鰯雲人のさだめものもろきかな 溝畠 洋子

空蝉や日照雨に濡れてやはらかし 溝畠 正信

墓鳴くやアシカの声も夜の園 溝畠 正信

私たち日本チーム（第2580、2660、2760、2770、2830、2840 地区からの40人）も、多くの海外からのロータリアンとともに、1億7,400万人の5歳以下の子どもたちへポリオワクチン一斉投与を行う、NIDの一翼を担いました。昨年も参加した方、今年初めて参加した方、どちらの方もポリオワクチンの2滴をインドの子どもたちへ投与するときの思いは、同じだったに違いありません。そう、「これでこの子の未来は確かなものになる」「インドへやってきて良かった」

世界保健機関（WHO）は、1980年に「天然痘根絶宣言」を行いました。人類を長年苦しめてきた恐ろしい感染症の一つから永遠に解放されたのです。予防接種費用も不要となり、天然痘根絶がもたらした経済的な効果もたいへん大きなものがありました。1988年のWHO総会では次の感染症根絶の目標として、「2000年までのポリオ撲滅」を決議しました。その決議に基づき、「UNICEF」「国際ロータリー」「CDC（アメリカ疾病対策センター）」が参加するパートナーシップの「ポリオ撲滅推進計画（Global Polio Eradication Initiative）」が提唱されました。ポリオ撲滅推進計画において国際ロータリーが果たしてきた役割、そして実績が世界から高く評価されていることは、下記の文章からも明らかです。

「特筆すべきなのは、民間団体の国際ロータリーがとても大きな貢献をしたことだ。国際ロータリーは、最初にポリオ撲滅計画を提唱した団体であり、現在に至るまで資金面、実施面への働きかけにおいて、継続的にポリオ撲滅推進計画を支援している。例えば、日本のロータリーによる街頭募金や地区での積極的な取り組みにより、1986年から5年間で約50億円の資金提供が行われた。また、日本各地のロータリークラブの会員は、世界各地で実施されているポリオワクチン一斉投与のボランティアとして自ら参加している」（『2010年ジュネーブ国際機関だより』から）

### 子どもたちの未来のために

このような取り組みが世界各地でなされた結果、1988年には約35万あった年間のポリオ発症数が、2010年には年間974例までに減少し、ポリオの常在国（野生株における継続的な感染が存在する国）が125か国から4か国へと減少したことは周知の事実です。しかしながら、ポリオ撲滅推進計画が開始されてからすでに23年が経ちましたが、99%の撲滅を達成したとはいうもののいまだに完全には撲滅されていません。これらの地域にまだポリオが残る理由は、過疎地へのア

クセスの欠如、予防接種への理解の欠如、劣悪な衛生環境、栄養障害による経口ワクチンの有効性の低下、紛争状態などです。果たしてポリオ撲滅は可能なのでしょうか？ 今回、インドのNIDへ参加して、その疑問への答えを見いだせたような気がいたします。

NIDの前夜、私たちは宿泊ホテルで、「インド・日本ロータリー友好の夕べ」を開催し、林肇在インド日本臨時代理大使のご臨席のもと、O.P. Vaish 元R I理事、Hemant Ahuja 元国内ポリオ・プラス委員長、Deepak Kapur 国内ポリオ・プラス委員長、Lokesh Gupta 国内ポリオ・プラス事務局長をはじめ、多くのインドのロータリアンとともに親睦のひと時を持ちました。親睦会の最初の1時間、Deepak Kapur 国内ポリオ・プラス委員長から「インドでのポリオ撲滅プログラム」についてのプレゼンテーションを受けました。

ポリオ撲滅推進計画前は年間3万人以上あったインドのポリオ患者数は、2010年には年間42人まで減少しています。今年は2月末までにわずか1人です。2002年に発症数が増えたのは、それまで順調に減少してきたことでNIDなどの実施を少し怠ったためです。2006年からの増加は、その地域で流行している型とは異なったタイプの一価ワクチンを使用したことによります。ポリオの2型はすでに世界的に撲滅されていて、1型と3型の両方に効く二価ワクチンの使用が有効なのですが、二価ワクチンは一価や三価ワクチンに比べて値段が高いために、使えなかった地区での流行が見られたためです。





わたる撲滅活動で、活動を主体的に担ってきたインドの保健行政に携わる官僚、医師、保健師、そしてロータリアンは疲れてきているのは事実です」と Deepak Kapur 委員長は、率直に直面している悩みを語ってくれました。

### 子どもたちと交わした約束を守ろう

「しかし、このように日本のロータリーの友人が、自分の仕事を休み、貴重な時間を費やし、旅費などのお金を自己負担し、わざわざインドの地までやってきてくれてN I Dへ参加してくれます。このような皆さまの存在は、私たちを大いに元気づけ勇気づけてくれるのです。皆さま、本当にありがとうございます」。このお礼の言葉に私たちの心は強く揺さぶられました。また来年も参加しようとの思いを抱いたのは、私だけではなかったことでしょう。

これまで日本は、ポリオ対策に大きな役割を果たしてきました。昨年の6月18日、先進諸国、ポリオ感染国、民間団体（国際ロータリー、ゲイツ財團など）などの主要なパートナーを集めたハイレベルな会議が開かれて、今後の活動のあり方、資金調達の見通しについての議論が行われました。この会議で、日本はポリオ撲滅推進計画への支持をいち早く表明し、ワクチン供与や予防接種体制の強化を通じて、ポリオ撲滅への支援を今後も継続していく意向を表明し、ポリオ撲滅推進計画

を大いに励ました。しかしながら、現在の戦略プランでは、約26億ドル（約2,080億円）の資金が必要だとされていますが、まだ現在のところ半分の資金しか確保されていません。撲滅に必要な資金調達のため、新しいスキームを早急に確立する必要があります。

なぜなら、ポリオ撲滅に向けた取り組みを中止することは、世界中でポリオが再流行し、その結果多くの患者とコストが発生することになるからです。私たち国際ロータリーもポリオ撲滅推進計画の主要パートナーの一員として、ポリオ撲滅を最優先課題に掲げ、2億ドルのチャレンジに挑んでいます。このチャレンジに打ち勝ち、ポリオ撲滅というゴールを目指しましょう。

ゴールまではあとFinal Inchです。世界の子どもたちと交わした約束を守ろうではありませんか。

**END POLIO NOW!**

第2830地区（青森県）2000-01年度パストガバナー  
写真：フォトジャーナリスト・ロータリー平和フェロー Allison Kwasell



インドでここまでポリオ患者を減少させることができたのは、1) その地域で発症しているポリオの型に合わせて、一価や二価のワクチンを適切に投入してきた、2) 同時に、下水道施設などの衛生環境向上にも努めてきた、3) House to House 作戦でポリオワクチン投与を徹底的に行って來た、4) インドの著名な政治家やスポーツ選手、歌手や映画俳優などの有名人の積極的な支援があり、一般国民の社会的参加意識が高い、などの理由からです。

私は Deepak Kapur 委員長へ「ポリオ撲滅は本当に可能なのでしょうか？」と单刀直入にお聞きしました。彼はしばしの沈黙の後、静かに語り出しました。「ポリオ撲滅は、子どもたちの未来のために必ずや成し遂げなければならないことです。撲滅が可能かどうかは私たちの現在の努力いかんにかかっています。昨年は発症数が初めて2桁になりました。今年はまだ1例だけです。願わくば来年はゼロにしたいものです」。そして、「長年に